

第46回市政一新市民会議・会議録（議事要旨）

・開催日時 平成23年8月5日（金曜日）午後2時30分～3時52分

・場 所 名張市役所 庁議室

・出席者 会長 中川 幾郎（学識経験者）
委員 伊藤 英次（関係団体）
" 岩崎 恭彦（学識経験者）
" 菅井 杏（関係団体）
" 寺田 智子（関係団体）
" 中山 登貴（関係団体）
" 溝延 克彦（公募委員）
" 室谷 芳彦（関係団体）
（50音順・敬称略）

副市長 前田 國男

（欠席者） 委員 梅本 俊子（公募委員）
" 富山 修（関係団体）
（50音順・敬称略）

〔議事説明者〕 地域政策室長 荻田 敏文
地域政策室員 久保 厚史

〔事務局〕 企画財政部長 山本 順仁
行政改革推進室長 岩崎 壽久
行政改革推進室員 高橋 優子・今村 典義

・内 容

- 1 市民と行政の協働のまちづくりの推進について（経過報告）
- 2 市長への提言（提言書の提出及び意見交換）
- 3 その他

第 46 回市政一新市民会議・会議録(議事要旨)

1. 市民と行政の協働のまちづくりの推進について(経過報告)

[地域政策室長より資料説明]

会長

何かご意見があればどうぞ。

委員

美旗の代表として 4 年目になるが、地域によって随分温度差がある。
また、この協働事業提案制度というのは、どこが所管するのか。

地域政策室長

システムを構築するのは私ども地域政策室であって、実際には地域経営室の方で運営をするような形になるかと思う。

委員

今地域で地域ビジョンを作っているが、美旗の場合は先にビジョンを作って、それからビジョンを動かすための組織を作っている。なんでもいいから組織を作って後からビジョンをくっつけるのは大変難しい。私はたまたま条例を作る時にいろいろ先生方に入っていただいて、自分も参画したので、これは先にビジョンを作らないといけないと思って先に作った。だから今取り組んでおられるところは非常にいろんなことが出てきて、大変ご苦労されてると思う。その地域によってコンセプトが違うので、まずビジョンを作る前にコンセプトを持てばそこから枝葉が出てくるであろうと考える。ただ、皆さん共通認識しておかないといけないのは、このゆめづくり地域交付金は当初 1 億円を使ったのだが、それまでは、いろんなところへ補助金を 2 億円出していた。いろんなところにたくさん補助金を出したり、たくさんいろんなことがあって、それを一度精査をして半額を交付金として出しますよ、というところからなっていた。だから、高齢者に出ていたお金もなくした。いろいろな子どもの分もなくした。全てのものをなくしてその半額を交付金として出していたわけで、そうした算出のもとになることがあるということをはっきりと覚えていただいた方がいいと思う。

また、現在動いている組織は、温度差もあるが皆さんそれなりにものすごく一生懸命やっておられるので、今後が楽しみだと感じている。

委員

素晴らしい仕組みだと思うが、一点気になったところがある。2 ページの(2)ゆ

めづくり協働事業の新規の協働事業について「市が既に行っている事業や他の地域でゆめづくり交付金により行っている事業は対象にしない」とある。この「他の地域で交付金で行っている事業は対象にしない」ことについては柔軟な姿勢であってもいいのではないかと。地域差のようなものがあると思うし、ある地域では行政が少し手出しをした方が進んでいくというものもあるのではないかと。一律に他の地域で交付金でやっている事業は一切対象としないというのは、やや杓子定規的な運用になってしまって、むしろその効果を阻害することにもなりかねないかと懸念する。ここはもう少し柔軟な形でできるように検討いただくといいのではないかと。

地域政策室長

先ほど3ページのところで基本的な考え方をお示しした。ここに記載はしていないが、その後で申し上げたように柔軟な対応もさせていただきたいと考えている。確かに地域の方で素晴らしい事業をしていけば、おそらくその事業はだんだん広まっていくと思う。それが例えば全市的に広がりを見せて各地域ともそれをやっていこうという形になれば、逆に今後それを提案制度の中でするのではなく、交付金化していくような形でもやっていけないか、ということも今後考えていこうかと思っている。今行っている地域があればもうすべて駄目ですよ、という意味ではなくて、柔軟に対応していこうと考えている。

組織については、現在こういう形で予算制度を見直していること、また、地域ビジョンが各地域から出されることから、庁内の組織についても全体の組織機構の見直しの中で、地域担当職員であったり地域担当部局の方も見直しをとということで進めさせていただいている。

委員

ずっと常に動いているので、本来は庁内の方がそれを先取りをしていくような形をとっていただくのが一番理想的であり、それは条例で定めているのだから当然の話である。

また、地域ビジネスのことが必ず出てくるが、私のところは、ビジネスをやっている。また次やろうとしているものがあるが、1つ行政にお願いがある。儲けさせてほしい。指定管理のことであるが、行政は、儲けがでたらダメ、困りますという基本的な考え方をもっている。私のところは今2つ指定管理をしているが、とにかく儲けを出さないでくれといわれている。ビジネスは儲けるためにするわけで、その人件費をどう計上するかということでやっていかなければと思っているが、ビジネスをするためにするんじゃない。資金を確保するためにするわけだから、それは行政の方も姿勢を変えていただいて、ただし利益が出たらいわゆる税の対象にしたらいと思う。

それとこの中に絶対にうたわなければならないことを忘れてる。必ず法人に

しないといけない。指定管理のお金とか、美旗の場合、年間2,500万円くらいのお金を動かしているが、全部私の個人口座である。早く法人にしないとどこかで絶対に事故が起こる。

事務局

指定管理の件は、前回指定管理の基準というのを作ったときに庁内で議論があって、当初の案では、利益がでた場合は、それを適正な料金改定などで吸収するようなことを書いていたが、そんなことを書くとやはり皆さん方のインセンティブがなくなるということで、それがカットされて、考え方としては、ある程度その経営努力によって利益を得たものについては、吸収しないように、そのようなことは変わってきている。

会長

とても良い方向に転換してくださっていると理解しているが、以前、まちづくり協議会の役員さんと区長連合会で検討会をしたその最後の段階で、法人化をしないといけないという提言をしたが、その後の行政内部としての検討がどのくらい進んでるのか。法人化の方向としては一般社団法人、もしくは一般財団法人、NPO法人、地縁法人という4つの選択肢があるが、名張市は地縁法人で特区申請してやりたいといわれたはずだが。

地域政策室長

法人化については、昨年度、内閣府、総務省とも調整して地域づくり組織の法人化に向けてある一定調整がついた。現在マニュアルも作って地域経営室の方で周知もさせていただいているところである。

委員

私のところは、もう特別委員会を立ち上げて法人にするが。

会長

総務省は資産がなくても地縁法人は認めるということか。

地域政策室長

例えば乗用車等の動産で、それでいいということ。

会長

いわゆる入会財産がなくてもいいということか。

地域政策室長

通常だと不動産だが、動産、例えば乗用車があればそれをもって法人化可能という判断をされてる。

委員

地縁法人は市長の認可なので我々としてはやりやすい。一部はちょっと慌てて社団法人にしたところがあるが、ちょっと大変なようで、かなり二重構造になってしまったようだ。いわゆる利益を求める団体でもなく、安全安心を求めていく、ソフトフェアの中心の団体なので基本的には過大な事務量といったものについて、ちょっと遠慮した方が皆さんが積極的に動きやすいのではないか。それに縛られてしまってちょっと困ったことになるのでは困る。条例を作るときにもう一歩踏み込んでよかったなと思っている。

会長

いわゆる一般社団法人を設立してしまった場合にも一旦法人解散して地縁法人へ衣替えする方がいいのかもしれない。

委員

定款があるので、そのままごろっと替えられるので。

会長

理事会決議によって切り替えることはできるはず。役員変更の度に登記料を取られるのはとてもコストがかかるので、社団法人でいく場合、社団の範囲、社員の範囲を絞っておかないとややこしくなる。使い勝手からいうと地縁法人が一番いいのではないか。行政指導をよろしく願います。

地域政策室長

コミュニティ・ビジネスの関係は、市からの支援として、勉強会をさせていただこうかと考えている。次回の地域づくり代表者会議で提案させていただくのでよろしく願いしたい。

会長

指定管理については、昨年12月に総務省の自治行政局長の追加通知が出ており、今お話ししたように、インセンティブが働かない、という批判がたくさん出ているので、行政に対して厳しい通知が出ている。5年なら5年と指定管理期間を議会で議決するその時に本来であれば債務負担行為をきちっと議決を採るところをそうしていないところがある。債務負担行為というのは5年間、例えば1千万円渡しますよなど5年分の5千万円を議決する。5年間毎年1千万円保証である。それが本来であるが、その債務負担行為の議決を採らずに期間

だけ定めて単年度単年度でどんどんコストを下げさせるというやり方は本来の趣旨と違うという通知も出ている。これは行政にとってきつい対応である。もちろん指定管理料の中で利益が上がって剰余金を出す、積み立てにするということは何ら違法ではない。だから、頑張って1千万円かかる仕事を900万円で片付けたときに、100万円余るなら来年900万円で契約しましょうということになるような指定管理はあり得ないと考えている。

委員

ツラあわせにいろんなことをやっていて、結局はツラあわせのための作業になっている。指定管理をするための指定管理の作業というようなことでは進まない。

会長

その方向で誤解が生じないように皆さんに伝えてあげてください。

2 市長への提言(提言書の提出及び意見交換)

[会長より副市長へ提言書を手渡し]

[事務局より提言書の朗読]

副市長あいさつ

「皆さん方、改めましてこんにちは。本日は亀井市長が公務出張中のため、代わって私が提言書を受けさせていただいた次第です。一言、先ほど提言書を頂戴いただきましたので、お礼のご挨拶を申し上げたいと思います。委員の皆様方には本当に公私お忙しい方々ばかりでございますのに、平成21年の8月から本日まで第4期の委員として第3次となる市政一新プログラムの策定をはじめ、同プログラムの推進計画、また市民と行政の協働の取組みなどに関しまして2年間、今日も含めまして11回の会議をもっていただきまして、慎重なご審議を賜ってお礼を申し上げます。本日をもって今までご審議いただいてまいりました総括として、「名張市の躍進に向けて」と題した提言書を先ほど頂戴しましたところでございます。重ねてお礼を申し上げます。

名張市といたしましては、今後とも、市政一新プログラムを着実に推進していくために、提言にもございます名張の価値の底上げにつながるような取組み、更には本日頂戴いたしました各委員さんのそれぞれ具体のご意見、十分に尊重させていただいて今後改革を断行しながら市政の推進に努めさせていただきたいところでございます。第4期の市民会議につきましては本日をもって終了させていただくことになるわけでございますが、委員の皆様方におかれましてはそれぞ

れのお立場から市政広範に渡りまして、ご意見賜りましてまたご指導、ご支援を賜ってまいりたいと思いますので、今後ともなにとぞよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。」

会長

それでは、全員からご意見をいただきたい。

委員

私がこの市政一新市民会議をとおして、とても気に入ったキーワードが3つある。やはり、この「魅力ある名張」というのと「新しい公」、それと「地域力・市民力」というのがキーワードになってくると思うし、とても夢があり、托してもいいようなキーワードと考えている。その中で提言という形にすると、どうしても堅苦しくなってお願いはかりのような感じになるが、私たちもやはり名張市民として一緒になってつくっていくという思いである。次、第5期があるが、また新しい方にこの会議の場を経験していただいて、またいろんな方に周知していただくというのがとてもいいことでもあるし、私はこの4期の会議に携わった中で、これを機に知らない方に微力ではあるがどんどん教えていきたいと思う。

委員

今般策定されたプログラムが完結編ということで、それを私たちが議論させていただき、その推進に向けて努力いただいているかと思うが、本質的には、これで終わりではないということだと思う。プログラムで目指してきたところがコスト削減や、あるいは効果向上ということで、これらは数値目標を掲げてそれが達成できればおしまいということでもいいと思うが、これから進めるこのプログラムは名張市が躍進することや魅力ある名張を創造するというで、これは数値目標を掲げられるような課題でもないし、どこまで行ったら「はい、おしまい」というものではないと思う。その意味ではやはり完結編という名前をもったプログラムでありながら終わりのないことに取り組んでいただく、そういうところに本質があるんじゃないかなと思う。緊急対策ということではなくて日常の仕事の進め方、仕事のし方というところにこれをどう活かしていくかが重要になると思うので、難しい課題だと思うが是非とも意欲的に取り組んでいただきたいと思っている。

委員

この会議に参加して自分自身とても勉強になったことがたくさんあった。こうやっているんなことがたくさん集まって市役所の中でお仕事されてる方がいることも知ったし、自分が関わってきた市民活動がどういう位置づけなのかということも、今まで自分達の団体のことばかりで精一杯だったが、もう少し広い目でこの辺りをもっと充実させていくために活動したらいいのかなという感じで、ぼんやりだが

見えてきたところもある。そういったところと合わせて、私は若い世代としては、新しい名張の魅力というのをつくっていきたいなと思ったので、この点に対しては提言できたことに満足している。これから頑張っていきたいと思う。

委員

私は途中から委員を交代して入ったので、今日新たに協働事業一覧表を見させていただいて、名張市はこういうことをしてるんだなということが分かった。これからはもっと勉強していきたいと思っている。提言の中の2番にある「各事業の実施においては名張市の経済の活性化に繋がる手法を優先すること」について、私は商工会議所の女性会から委員に入っているのですが、この部分を今後チェックしていききたいと思う。

委員

市民活動をしてきて、全体がよく見えなかったのが少し見えてきたり、とても勉強になったが、まず地域づくりの件に関しては、各組織の役員や区長、自治会長の方の地域づくりの取組みに関する負担が大きくなってきていることを目の当たりにして感じる。単年度で終わってしまう、その任期もできたら早くやめたい、やめてしまったらまた振り出しに戻る、というようなことがよく見えていて、つつじが丘でも一生懸命取り組んでいたビジョンづくりが本年度はどこへいったのだと私は今感じている。資料に地域担当職員の見直しを含め、と書いてあるが、私たちがお世話になってる部署の方に一生懸命していただいているが、やはり同じ地域の中をどうしていこうかというスタイルでするのでなくて、その会議の中の市の職員はお客さんとして聞いてるといふふうに見える。だから本当に共に汗を流してどうしたらいいやろうということを、役所はあまり動かないが、地域の方はほとんどボランティアでやっているのだから、ボランティアは気力が続かなくなったらやめてしまうので、その辺りをもっと継続できるような形になってほしいと思う。

委員

私はテニス協会の活動をしていて、その中で施設の改善などを行い、かなり実現させてはいただいているが、その中で安心安全と快適ということをやっている。テニスコートの中に葉がたくさん散らばっていることなどがあり、快適支援ということで私も掃除をさせてもらっているが、本来、施設管理者としては、安全に配慮してほしい。葉で滑ったりするし、テニスコートにどんぐりが落ちてくるとも、いろいろ交渉してもなかなか改善してもらえない。そのために要望書を毎回書かないといけないとかストレスが溜まる一方である。本来はそういうことは、コストがかからなくても固定費の中で賄えるというような快適性を追及できる場があると思う。そういう要素がいろいろあるところにある。そこがもう少しよくなると名張市の市政としてランクアップしてくるのではないかという思いがある。先日の事業

仕分けでもいろいろ意見を出させていただいたが、やはり、効果と目的、何を提供するかというのが少し欠けているところがあると思う。最適性、何をするためにするんだということで、例えば、水の処理をいろいろされているが、名張川の水質の水質を良くするために、というような基本的な目標があって、データをフォローしているとか、そういう手を打ったものや効果との対比であったり、そういう方向で客観的な効果というのを求めていきたいと思う。

ずっと名張市が発展する限りは課題があると思うので、地道に市民の幸福を追求していただければいいのではないかと思う。

委員

第5期は、委員もかなり変わるだろうし、このまま継承していけるとは限らないので、第5期に向けてのお願いであるが、もう既に名張というところは他の地で生まれ、育てて名張へきて20年になる、というような人が5万人いる。それと旧の名張に住んでおられる方が3万人から4万人ぐらいで9万人ぐらい。当初はそういうはっきり分かれてる部分があったが、今はもう完全に1つになってるという絶対条件をまず認識していただきたいと思う。それをまず第5期を実施する上での1つの大きなコンセプトとして持っていただけたらありがたいと思う。それに伴ういわゆる行政に対してのお願いは、提言の中で項目3つ目の行政の内部の意識の改革である。行政マンは、当然ほとんどの方が、地元の方だと思うので、そうすると我々他所から来たものをお客さん扱いにしてもらうということも非常にありがたいのだが、そのわりにいろんなことが回ってこないなというようなこともあったりする。その辺りのことをきちっと精査をしていくと、よりいろんな知識が出てきて知恵の塊がより大きくなっていくのではないかと考える。

また、亀井市長になってからハードウェアの着工を制限して、あれはよかったと思っている。ある方の講演会で聞いて感動した言葉であるが、ハードに力を入れるのは巨大に見える。ソフトウェア、文化に力を入れるのは偉大に見える。巨大はつぶれることがあっても偉大はつぶれない。名張はこの第5期の市民会議をしていただく上でその部分、いわゆる次の時代の文化を今どうやって作っていくのか。行政はどんな役目ができるのか。我々地域住民の力はどうやって行政と協働を図って次の後世に残していく文化をここにつくるのか。今の次の文化をどうやってつくるかということコンセプトとしていただいて、次の第5期に入っていただくというお願いである。

会長

提言書の趣旨を追加説明したい。

私の場合、「名張市は専門の私の目から見てももうすぐ倒れるだろう」というところからお付き合いがはじまった。これほど厳しい財政状況のなかで、ずいぶんコストダウンがなされ、危機は脱しつつあると思う。公債の償還年度の山を越え

たらここから先は少し展望が開ける見込みが大きいので、思い切って、第4期の市民会議では、それ以後の展望を導き出すように努力してきたつもりである。

微妙な言い方だが、行政改革は、3段階あると思っている。第1期及び第2期の段階でコストダウンの改革提案は出尽くしているのではないが、行政も努力しているはずなので、コストダウンの話よりも、いかにしたらもっとみんなが元気が出て、次世代に向けた再生産性を確保できるのか、ということに議論をしていただきたいとお願いした記憶がある。人を減らせ、給料下げろ、もっとけちれ、という話はもういいんじゃないの、という思いでやっていた。そしてどうしたら元気になるかという提案をいただけるように頑張ったつもりである。おかげさまで、いわゆる選択と集中というところに、みなさんの気持ちも意識も移って行って、それに集中できたと思う。前期も委員をしていたが、そのときの雰囲気と今回はだいぶ違ったと思っている。

次なる魅力ある名張を展望していくときに、何が大切なのかを考えると、まずは、安全であること、安心であることが基本である。安全、安心は、コストダウンと逆行する。コストを切り詰めると安全安心は落ちてくる。安全安心はコストダウンと反比例の関係にあるが、守るべき最低限の安全安心がある。

風格というかアイデンティティ豊かで、近隣はおろか、日本に誇れるような名張であってほしいということ意識して、その意味で名張の価値の底上げといっている。今のは私個人の意見だが、名張は文化的な資産、観光開発につながる資産を潜在的にたくさん持っている。持っているが、それがうまくルート化されていない、客を呼び込むような形にインパクトを発揮していないという面がある。その原因は、市民自身が名張の持っている文化資産に対して価値意識を持っていないのが原因ではないかという気がする。市民が自分たちの財産に関する価値認識が足りない、外から見たときどうかだけでなく、中にいる人がもっと誇りとプライドを持たないといけないのではないか。

あわせて、様々な改革事業が結果的に名張のブランド性を高めること、それがひいては、将来の経済発展につながる起爆剤になることをイメージしている。個別の事業においても、名張市の経済の活性化に繋がることを絶えず意識してもらいたいということである。

そうすると市民も意識が変わってきていると思うが、市民の意識の変化、活性化に対応して行政も意識が変わらないといけないことが指摘される。それが市職員の意識改革の徹底である。市民と行政が協働でしている事業は、地域づくり委員会をはじめとして、NPOでもいろいろ取り組まれているが、まだ、全面的に、それが安定的に展開できる成熟度に達していない。もっとそれに力を強めていただきたい。考査委員として事業の考査をしたが、いくつかの部局の事業が、協働でできると思われるのに、自分たちでやりきらないといけないと過剰に責任を感じすぎている面がみうけられた。まだ行政の組織内部に自己完結型の文化が強いと感じた。実践面からも意識改革が必要ではないか、シャープで

強い名張、輝く名張、ブランド性を確立した名張にしていくためには、市民プラス職員力双方を磨きぬく必要がある。それを実践していくその武器こそ市民と行政の協働の手法を実践し、多用することではないかということはこのペーパーにこめている。

副市長よりお礼の言葉

「ありがとうございます。こうした提言書をいただき、今、この提言書に委員の皆さん方からそれぞれご意見をお示しいただきました。また、最後には、会長からも少しまとめ的なお話を賜りました。おっしゃっていただいているところ、本当にありがたいなと思わせていただいております。

亀井市長が就任されて、平成14年の9月、その当時、私は財政課長を担当しておりましたが、これで名張市やっていけるのかな、というような財政状況でありまして、名張市としては非常事態宣言をさせていただいて、行財政改革といいながら、メインはコストダウン財政改革的なことを主眼にさせていただいて、市政一新プログラムにあわせて財政健全化緊急対策を講じさせていただいて、それからまっしぐらに改革一本やりでさせていただきながら、市民のみなさん方、さらには各種団体の皆さん方、そして地域のなかでご活動いただいている地域づくりに携わっている方々に本当に犠牲になっていただくと申しますか普通なら求めていただいて当たり前の行政サービスを少しご辛抱賜って痛みの伴う改革をさせていただいて、それを2次、3次と続けさせていただいているなかで、今年と来年度、なんとか来年度の当初予算を組み、決算を無事迎えられましたら、今までの厳しい財政状況を脱することができるな、という実感を市長も私も確かなものとして、今持たしていただいているところでございます。これにつきましても委員の皆さま方からのご指摘、この市政一新市民会議のご指摘があって、今日があるのかなと、こう思わせていただいております。そんな中で先ほど来から、今後の名張市のあるべき姿について、様々な、私の方からしても胸躍ると申しますか、ああ、すごい名張市にこれからなっていけるな、それを目指してやっていけるな、というキーワードをたくさん、頂戴いたしました。

亀井市長の3期目のマニフェストについても、名張、これからは躍進だ、という形に全て、それぞれ主要事業、重点事業を組み立てかけて、それを実行しようと、今しているところでございますので、今、それぞれ委員の皆さまからご指摘いただきましたことについて、十分、職員の意識改革をし、また、職員一丸となってこれからの名張市づくりのために、頑張っていきたい、こう思わせていただいております。本当に行財政改革は、永遠に続けないといけない、立ち止まってしまったらそこで終わりだと、日々思っているところでございますので、今後とも、ご指導、ご支援、ご理解賜っていきたい、と、かように考えておりますので、本当に長い間ありがとうございました。ご意見に対して、お約束なりご回答申し上げられないのですが、とりあえず、お礼の言葉とさせていただきます。」

その他

事務局

その他の項目はないので、皆さんから何かあればどうぞ。

会長

その他ということで、まだ少し時間にゆとりがあるのでこの際だからお話がございましたら、どうぞ。あれ作ってくれ、これ作ってくれという話はナシだが。

委員

まず申し上げたいのは中川先生、ご苦労様です。ありがとうございました。他所の方なのに名張に来ていただいて。前回の3期の市民会議も私は途中から参画したが、この4期については本当に足並みがそろって非常に改革に結びつく本旨にかかる部分がかかり出てきたんじゃないかと非常に喜んでいる。地域づくり委員会は非常に温度差があるのは事実である。捉え方だと思うが、権限をある程度移譲してもらってるんだから何でもできるやないかという考え方が、それとも従来のことをこれだけのお金を今までもらってたのに半分になってる、どうするんだという単純な発想になってるか、ということである。そこで先ほど私が申し上げた、その地域の文化の確保、人の確保、ソフトフェアの確保ということがある。ソフトフェアの結果ハードも付いてくるかも分からないが、ハードにはソフトフェアは付いてこないの、やはり人がつくる人の社会、潰すのも人、大きくしていくのも人。やはり人の輪、それから同じところで生まれる価値観の仲間づくり、まず同じところで笑う仲間をつくることかなと思う。地域づくりというのは、その組織と行政とどう関与していくかということが今後の大きな課題。とりあえず形はできたが中身の構築がまだこれからかなと思う。何か両手両足ばたばたしながら走ってるというのが現状だが、転ばない程度に走らないといけないと考える。

それも実は中川先生に勧められて、兵庫県のあるところへ視察に行ったが、そこは中川先生の匂いがプンプンした。その地域は一生懸命で、やはり誰かがそういう石を投げないといけないということだと思う。美旗の場合は松阪の市長も見に来てもらったり色々付き合いが出来て、来ていただいているが、全部フィールドが違うので、同じようなことはできない。結局はそこで考えないといけない。これが地方分権一括法の一番基本になる部分ではないかと思う。その地域に例えば1億円のお金があったらこの地域だったらそのお金をどこに使うのか。北海道の真ん中に人も何も通らないようなところに高いお金をだして、国道の横に4mの歩道を付けるんだ、という、その辺はやめましょうよ、ということが基になる部分である。

地域づくりは動き出してまるまる3年目に入るが、良かったかなと思っている。当時の生活環境部の職員の方がいて、そのチームがムードをつくった。そのム

ードに流れて今の地域づくり委員会がある。やはり、創始者はその部の職員の方であり、その上に亀井市長がいて、という経緯を今さらながらに感じる。

委員

私は余所者ながら今は津に住んでいる。元は埼玉出身で、勉強させていただいてありがとうございました。今のお話をうかがって本当に感動したのだが、若い方がこれから頑張っていく思いで会議に参加される、こういう雰囲気はなかなか作れないのではないかと思う。ピンチをチャンスに、まさに名張市でその芽がいくつか出てきていうところであり、その芽を摘み取ってしまわないように、是非是非頑張っていたきたいなと思う。

会長

地域づくり委員会に行政がやっている仕事をシフトしていくのは正解だと思うのだが、目標を常設の事務局長を雇えるだけの資金移転、予算確保に向けられたらと思う。

先ほど地域づくり委員会の役員の負担がどんどん増えてきているという話があったが、それを軽くするためには、やはり常設事務局がいる。常設の事務局がいる地域もあると思うが、ボランティアでしている。ボランティアとする報酬は何かといたら地域の人々の信頼と感謝しかない。ちょっとでも不信にならせるような声とか足を引っ張るような言葉が飛んでくると、一気にやる気を失ってしまう。地域の人々が雇うのもよいし、あるいは退職された市役所の再雇用後の人が雇うのもよい。それは地域の自由だが、やっぱり事務局という仕事というのはボランティアでは無理だと最近思った。そういう人達を雇うだけの、目標でいうと年間200～300万円はその方にお渡しできるぐらいの、それが当たり前だというぐらいのところまでこぎつけてほしいと思っている。

委員

美旗はこの3月から月20万円で専任の常勤を雇った。人件費がいるのでそのために指定管理をもらった。

会長

またもらえるのか。

委員

今2つ指定管理をもらっていて、その両方から人件費をとっている。その人は地域づくり委員会の専任で1年間。今の事務局長はパートでその方は常勤で保険もつけている。それがために儲かる仕事をしないといけない。それで儲けさせてほしいという話をしている。

会長

ますますその辺りのビジネスは成り立たないといけない。公益団体であってもビジネスモデルとしてもたないといけない。いわゆる公益の社団財団の条件というのはそんなに厳しいものではなくて、収支相償ということで収入としては大体バランス。それから公益目的事業費率が1/2以上ということで、公益目的以外の収益事業があっても別に構わない。地域づくり委員会は全く儲けを出したらいけないというのは、とんでもない間違いをしている。その辺はまた伝えていただきたい。

2つ目に、この委員会を通じて素晴らしい市民が行政に発見されたと思うし、そういう市民を広げてくださるということで期待できると思うが、私は名張という町はさほど大都市ではない、という利点をもっと活かしたいと思う。市民のネットワークが張り巡らされてるので、言葉は悪いが善事垣の内を出ず、悪事千里を走るといって、ネットワークが緊密で小さければ小さいほど善事が走る。そういう意味でネットワークを濃密にしてほしい。その中でも市民の多さを誇りにするのはやめよう。人口が増えれば増えるほど初期投資がかかって回収できなくなる危険性も高くなる。それよりも定着して所得も上げてくれる、そしてこの町大好きというふうな市民層の比率を上げる作戦に出るべきだと思う。そういう市民の中のよい市民の比率を上げるというふうに考えたらいいのかなと思う。その市民の政策評価のモデル資料として提案したいのは、行財政改革などを計測するときに経常収支比率だの実質赤字比率などを出すのが、市民アンケートをとる時にその仕事に関してどれだけのコストがかかるかを意識していますか、とアンケート項目に入れることである。市民自身の中にどれだけコスト意識が発生するかということを見てほしい。これまでの行革議論では市民にはコスト意識がないということである。要求するのは常にパフォーマンスである、その前提で役所が仕事をしている。給料が高すぎる人間が多すぎる。本当に堂々巡りの不毛な不信である。それを覆すためにも市民にコスト意識というのを持ってもらおうというPRというのが必要ではないかなと思う。

昨日の考査委員会にごみ焼却炉の話が出ていた。1,300度の燃焼。何年もつかといたら10年もちますと言っていたが10年もつはずがないと委員との間で応酬があった。「現在では1千度を超えるもので10年もったものは存在しないはず。業者にだまされているのではないかと。建設費について市民にストレートに知らせるべきだと思う。そういうことも広報紙とかいろんなところにPRしたらどうか。あれもしろ、これもしろ、なんでもしろ、といってもできないことは分かっているの、もう議論できる市民は実は地域づくり委員会で育ってきていると思う。地域づくり委員会を大事にしてほしいという気がした。

委員

名張川が名張のなかでは大きな位置を占めていると思う。鮎釣りなど大阪や名古屋からも来ていただいているし、トイレなどの環境整備、川に親しむという環境を改良されれば名張川は清涼というイメージが湧くと思う。女性で釣りをしたいという人もいるが、トイレがないので近寄れないという意見もある。やなせ宿はできたが、あそこは釣りの環境がちょっと良くないし、駐車場が少ないというのが欠点であり、人が集りやすい環境をつくってあげればいいと思う。比奈知ダムの下や長瀬の親水公園などがあるが、子どもが行こうと思ったら親がドライブして連れて行かないと行けないところである。やはり近場で川に親しむという場があったらいいと思う。運用など上手にしてトイレの維持費をいろいろ捻出して環境改善すれば、名張は綺麗なところだと観光の方にも大きなウエイトがあると思う。現状は、イメージ的にちょっと遅れているなという感じがする。

会長

担当の方に伝えておいていただきたい。

委員

観光協会は弱いと思う。

委員

先日、議員とも話し合いをした中で観光行政をもうちょっと固めませんかということで宿題をお渡ししている。

会長

余談であるが、昨日、観光振興の事務事業考査をした。室長と係員の2人だけが担当する事業量がとても多い。いろいろ調整事項が多すぎる。我々考査委員の意見は、観光協会がやるべき仕事、商工会議所がやるべきこと、それから観光事業者が本来やるべきこと、本来観光振興担当課がやるべきこと、は何か洗い直してください、ということであった。できれば仕事を潰してください、「これはいりません。観光協会がやるべきことです。」と返すときは返してくださいと意見した。そういう点では観光協会もちょっと考えを改めていただいて「自分達がやるべきことはこれです。ここで役所が助けて欲しいんです。」ということをもう一度出し直してもらわないといけないと思う。そういう話をしているので、ある意味では観光協会のこれからの役割は少し重たくなっていると思う。

会長

それでは時間になったので、終わりとしたいが。

事務局

今後、この提言書はホームページに掲載するのでご了承ください。

会長

これで終了とする。

以上